

令和元年度 学校評価シート

学校名： 和歌山県立箕島高等学校 学校長名：宇恵 哲也



めざす学校像 育てたい生徒像	<ul style="list-style-type: none"> 確かな学力と教養を身に付け、社会に貢献できる個性豊かな生徒を育成し、地域から愛され信頼され期待される学校 志と目標を高く持ち、自らの人生を切り拓いてゆくことのできる生徒
-------------------	---

本年度の重点目標 (学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	1 基礎・基本を大事にし、知・徳・体、バランスのとれた生徒の育成を図る 2 キャリア教育を推進し、生徒各人の進路実現を図る 3 部活動及び自主活動の振興を図る 4 地域コミュニティの中核を担い、地域社会とともに生徒を育てていく
--	--

中期的な目標	<ul style="list-style-type: none"> 3S（整理・整頓・清掃）運動の更なる推進 学校のICT環境の整備 インターハイ上位入賞者数が増えるよう指導内容の工夫・改善を図る コミュニティスクールの活性化 働き方改革の推進
--------	--

学校評価の結果と改善方策の公表の方法	学校から発信する（箕高新聞やPTAだより等）を活用して、保護者に自己評価及び学校関係者評価の結果を知らせるとともに、インターネットのホームページでも公表する。
--------------------	---

達成度	A	十分に達成した。(80%以上)
	B	概ね達成した。(60%以上)
	C	あまり十分でない。(40%以上)
	D	不十分である。(40%未満)

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
 4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
重 点 目 標					年 度 評 価 (3月11日 現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善方策
重点目標 1	基礎基本を大切にされた確かな学力を根底に生徒自らが主体的に学習に取り組む態度を身につけさせるため、校内研修会の開催など、従前以上の組織的な取組を推進していく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態に応じた学習内容で、より効果的な学習指導を行うための取組を進めているか。 望ましい勤労観と職業観を育成するキャリア教育の推進が図られているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業規律の確立 研究授業や公開授業の積極的な実施 キャリア教育において「箕島高校つきたい力18」の実践 地域の企業との連携 高い就職内定率の維持 	<ul style="list-style-type: none"> 始業チャイムと同時に授業開始の実現 定期的な公開授業の実施 インターンシップの充実及びキャリアノートの効果的活用 外部人材の活用回数の確保 就職内定率100%の維持 	<ul style="list-style-type: none"> 授業規律については改善が見られるものの、個人により意識の差があるため、今後も引き続き指導を継続する必要がある。 全学年でキャリアノートに沿ったキャリア教育の実践が図れた。1年生全員がインターンシップに参加することができた。 有田ロータリークラブ、校友会等と連携し、ガイダンスや協議会の開催が実現した。 就職内定率96.9%。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 規律意識を高めるため、定期的に指導を続けるとともに、授業開始直後の巡視を実践したい。 就職、進学の内定者の大半は、進路選択に消極的な生徒である。1, 2年次から進路LHRやガイダンス、講演等を通じて、生徒がより早く適切な目標を定め、進路決定への準備を進められるように指導を重ねることが必要である。
重点目標 2	生活指導部の身だしなみ指導を中心とした積極的な声かけや教育相談係等の丁寧な対応により、学校が落ち着いた状態になってきているが、3+1ない運動やSNS等利用の正しい知識など、社会人となるためのコンプライアンス意識を定着させる取組を一層推進する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 社会生活の中で自他ともに大切にしている行動をとれているか。 校外で適切な身だしなみができているか。 駅や街頭での行動や自転車乗車等のマナーが守られているか。 SNS等の適切な使用ができてきているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻生徒への適切な指導を行う 定期的な服装頭髪等の点検実施 定期的な街頭等における指導の充実 SNS等の適切な使用方法に係る啓発活動の充実 学年アセンブリーの充実 	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻カードや個別指導を通じて、遅刻防止につなげる 身だしなみ指導の充実 自転車安全運転街頭指導等の充実 定期的な列車指導 SNS等に係るマナー指導の充実 定期的なアセンブリーの実施 	<ul style="list-style-type: none"> 個別指導により改善が見られる。 一部の生徒を除き、よい状況にある。 登下校時のマナーについては、引き続き指導が必要である。 情報モラル講座の開催やアセンブリー等において指導を重ねるが、今後も継続した指導が必要であると考える。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、基本的生活習慣の確立と通学マナーやモラル向上に向けて取り組んでいく。全体的には良好な状態にあるが、継続的な指導が必要である。校内での巡視を強化し、登下校時のマナー指導を徹底していきたい。 学年アセンブリーの定期的な開催を積極的に行う。
重点目標 3	毎年全国高校総体や近畿大会に多くの生徒を出場させている実績を生かし、部活動と学習活動の両立を図りながらより高いレベルの目標達成を目指していく。生徒会を軸に文化祭等の行事や校内美化活動を学校全体のものとして、より充実した取組にしている。	<ul style="list-style-type: none"> 競技力の向上を考えた取組ができてきているか。 行事等は生徒会が中心となって企画運営し、クラス全体で取り組んでいるか。 3S（整理・整頓・清掃）運動は徹底されているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 大会やコンクール等における成果の充実 効果的な練習方法や強化合宿等への積極的な参加 学校行事、委員会等における生徒主体のスムーズな運営の充実 教室等の学習環境のための整理整頓の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 近畿大会・全国大会等への出場者数及び上位入賞者数の増加 競技力向上のための講演会や講習会の開催 生徒会活動や委員会活動の定期的な開催 3Sパトロールの定期的な実施(校内の整理整頓、美化活動等の徹底) 	<ul style="list-style-type: none"> 近畿、全国レベルの大会への出場は、例年通りの実績が残せた。国体において相撲部団体が準優勝を遂げた。 医療機関や専門学校と協力して、トレーニングやケアに関する講演会開催の計画段階に進むことができた。 文化祭等の学校行事は、生徒会を中心として運営され、成功裏に終わることができた。校内における3S運動が定着し、校内環境の整備が進んだ。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 本年も近畿、全国大会に110名を越える出場者数を数え、さらに国体において、相撲部が団体準優勝を遂げるなど、素晴らしい戦績を残してくれた。文化部においても合唱部、吹奏楽部が地域の多数のイベントに参加した。生徒会活動も積極的に自主活動に取り組む形が芽生えてきた。3S運動の活性化によって、校内美化は画期的に進んだ。更に次年度も継続して行いたい。
重点目標 4	有田市唯一の高校として、地域コミュニティの中核を担い、情報の提供、発信を行っている。今後はきのくにコミュニティスクールとして地域とともに成長し、様々な課題を解決できるような学校づくりを推進していく。	<ul style="list-style-type: none"> 有田市をはじめ地域の諸団体との交流をどれくらいできるかどうか。 学校運営協議会において学校運営充実のための適切な意見交換が行われたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒や教職員の地域の活動への参加 有田市役所(地方創生)と連携して様々なプロジェクトへの運営協力及び地域活性化への貢献 地域との交流を積極的に進める 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の活動への参加回数の確保 課題研究授業での実践発表や成果の充実 地域の小学校・中学校との交流や合同事業の実施 地域への情報発信の回数を確保する 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会、情報経営科課題研究班をはじめ、学校として積極的にボランティア等の地域活動に参加できた。 機械科・情報経営科合同の課題研究発表会をはじめ開催した。PTA、同窓会の出席を得て、内容のある発表が繰り返された。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 機械科、情報経営科における課題研究の取り組みや生徒会活動をはじめ、「地域とともにある箕島高校」を目指し、「積極的に校外に出て行く」活動から、「地域の方を学校へ呼び込む」仕掛けを考え、更なる活性化に繋げたい。

学校関係者評価
令和2年3月13日 実施
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> 外から見える「箕島高校」は、やはりスポーツの拠点校というイメージが先行している。「スポーツの箕島」以外のキーワードは「地域」「就職率」などが考えられる。例えば機械科の市内小学校への朝礼台贈呈や、情報経営科の地域との取り組みを、SNS等を通じてもっとアピールするとともに、小中学生に対する発表や交流の機会を設けていったらどうか。 ボランティア等の活動が積極的に行われるようになってきたとのことである。市町村や各種団体の依頼を受けての活動参加を促進してどんどん扉を広げ、学校側から「こんな活動ができる」と、PRしていくことも大切だと考える。 学校の内側から校外へ出向いての活動については、生徒会、吹奏楽部、合唱部等、実績を積んできていると思う。「地域とともにある箕島高校」を目指し、例えば文化祭や各種の講演会開催時に、市民の参加を呼びかけたり、教育課程の中に地域との関わりを組み込み、市民参加の講座開設など、カリキュラムの中で地域交流を促進するなど、「地域の方を学校へ呼び込む」仕掛けを考えてもらいたい。 LGBTに係る対応について、特に制服の扱いについて検討を必要とする時代となっている。対策の検討を始めてもらいたい。 情報経営科の課題研究での地域との取り組みは、素晴らしい実践を重ねている。令和2年度の課題として予定している、「高校生と地域力によるスーパーマーケット活性化に向けての取り組み」においても、単に報告書の作成に終始するのではなく、もっと強いインパクトが与えられるような企業側とのコラボレーションを期待している。